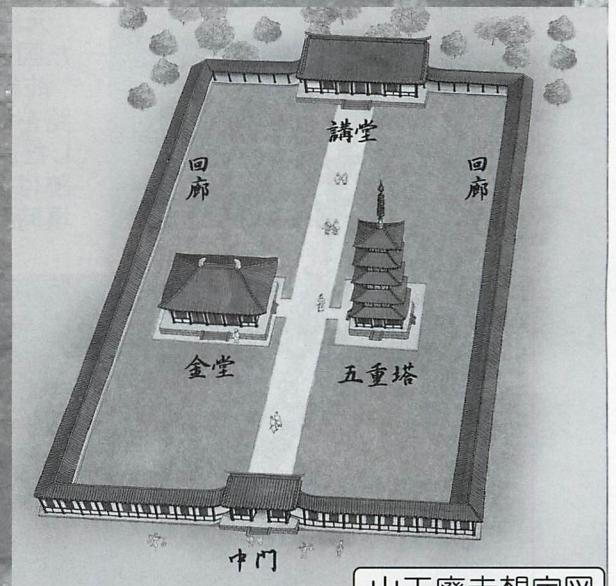


い・せ・ま・り・わ・る・ど in 前橋 2008

平成19年度 前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ

いくつ重なっているかな？



山王廃寺金堂の基礎

山王廃寺想定図

写真は版築(はんちく)という工法で造られた山王廃寺の金堂の基礎(きそ)部分の様子です。上の部分には白色の粘土を使用し、下には黒や褐色の土を使っています。下から約5~10cm幅で一層ずつ土を盛り、つき固めることを20回以上くり返している様子がわかります。金堂はお寺にとって大切な建物なのでこのような方法を用いました。この調査で金堂が建てられていた範囲がわかりました。

総社町山王にあるこの山王廃寺は今から1300年前、7世紀後半に建てられたお寺です。5カ年計画の二年目の今年度は金堂の基礎部分と西側の回廊の調査を中心に行いました。今年度の調査で、講堂・金堂・回廊の範囲がほぼ確認でき、主要施設の範囲が東西約80m、南北約100mの広さであることがわかってきました。そしてこのお寺が7世紀後半に建てられた代表的なお寺であることがより確かとなりました。

これまでの調査の成果から、山王廃寺全体が国の史跡に指定されました。

平成19年度も前橋市内の多くの場所で、発掘調査が行われました。多くの作業員さんや地元の方々の協力の下に、暑い夏から寒い冬まで調査が行われました。発掘調査のまとめとして、両面印刷のパンフレットを作成しました。前橋市のどこでどんなものが今年度の発掘で見つかったのか、なるべくわかりやすくまとめました。たくさんの方にこのパンフレットを見ていただき、昔の人々の暮らしに少しでも目を向け、身の回りにある文化財を大切にいただければ幸いです。

蛇穴山古墳



周堀の貼石(はりいし)



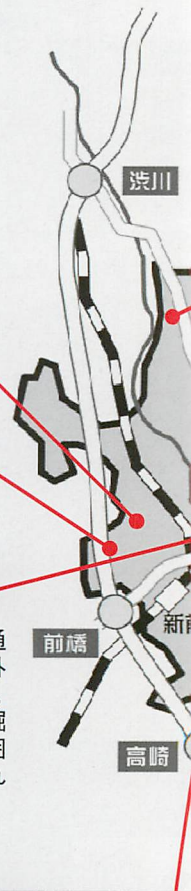
周堀の貼石

旧総社小学校の南にある古墳時代(7世紀後半)に造られた蛇穴山古墳の調査です。校庭を掘り下げると、古墳を囲む堀の外側に堤(つつみ)と堀が見つかりました。貼石は水平を意識しながら、20~50cmほどの石を置いていることがわかります。この調査で蛇穴山古墳は二重の堀を持つ、82m四方の古墳であることがわかりました。

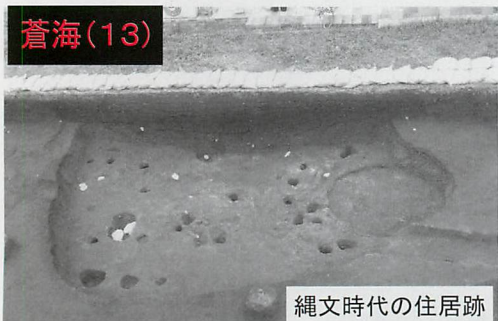


平成19年

発掘調査では、住居跡、土坑、具がたくさん見つかりました。今以上に大きく2つに分けられます。
 ☆山王廃寺の回廊、金堂の建てられました。
 ☆前橋市の北部、南橋地区にも、耕作を行っていた集落がありました。



蒼海(13)



縄文時代の住居跡

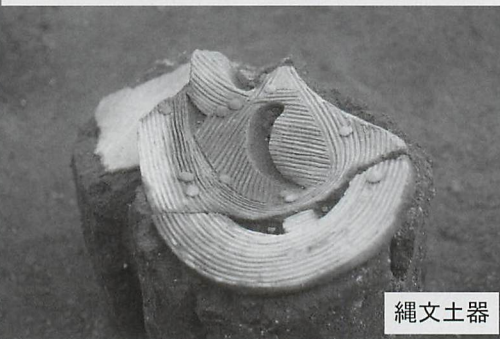


土偶

元総社蒼海遺跡群 (13)~(19)

元総社地区は奈良時代に群馬の中心地だった国府(今でいうと県庁)がありました。

前橋市が区画整理を行う(ここでは新しい道路をつくる)前に、今年度も発掘調査を行いました。今年度は残念ながら国府に関する遺跡は見つかりませんでした。今年度は縄文時代と古墳時代の特徴のある遺跡を紹介します。



縄文土器

縄文時代前期(今から6000年前)の住居跡から土偶が見つかりました。大きさは約6cmの板状の土偶です。目と乳房があるのがわかります。当時の人々がどのようなことを祈って作ったのか想像してみてください。このように完全な形で発見されたのは、大変珍しく県内でも数少ないことです。

前橋城

城の中心部分へ通じる「車橋門」の外側を調査しました。江戸時代末に、堀が門を半円形に囲むように造り直されていました。

南橋東原遺跡



古墳時代

蒼海(19)



古墳時代の水田跡



舟形容器

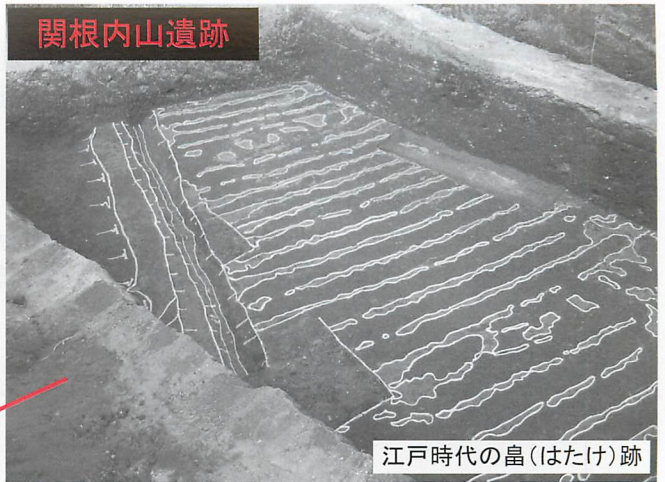
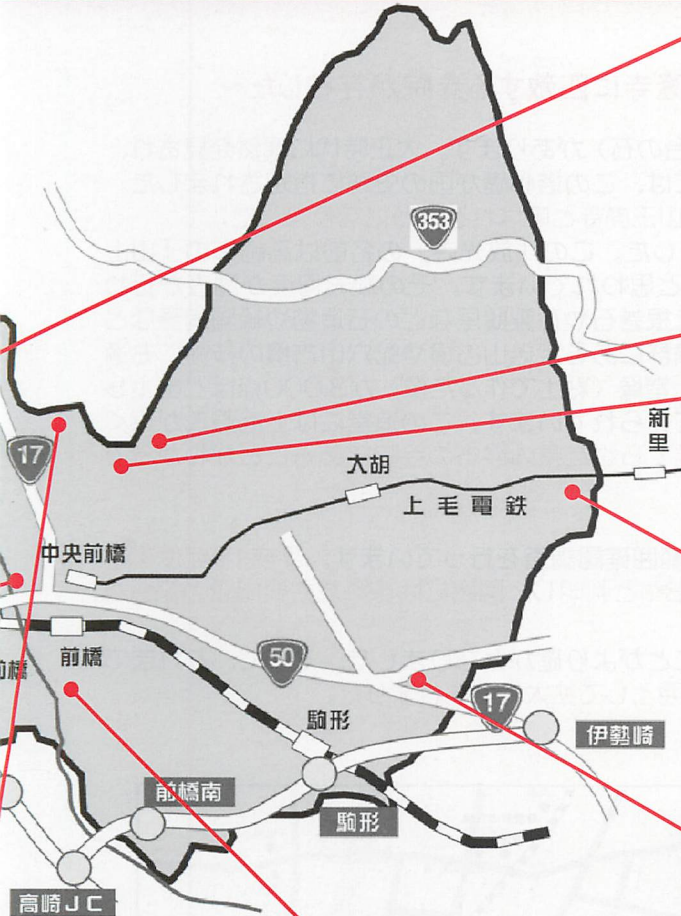
水田跡から舟の形をした木製の容器が出土しました。木をくりぬくようにして作られています。儀式などの特別な時に使われていたようです。

年度の発掘調査

溝などの生活の跡や、おわん、かめ、つぼなどの道具類が、今年度の発掘調査でわかったことをまとめると次のよう

にわかってきた範囲がわかり、このお寺全体の範囲がほぼ明らかになりました。(調査範囲が大幅に広がりました。)

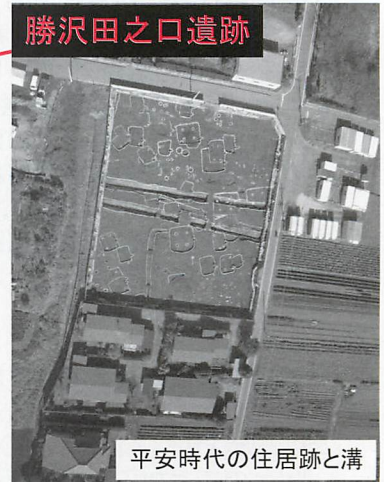
古墳から平安時代にかけて多くの人々が住み、水田があった。



関根内山遺跡

江戸時代の畠(はたけ)跡

天明3(1783)年の浅間山の噴火による泥流層に埋もれていました。遺跡は広瀬川低地帯にあり、これまで遺跡は存在しないと考えられていましたが、最近になって新たな遺跡が見つっています。



勝沢田之口遺跡

平安時代の住居跡と溝

中央にほぼ平行する二本の溝が、この地域の境界線になるかもしれませんが。

鳥取番城遺跡

調査した場所の中央から、室町時代にあった勝沢城に関係すると思われる溝が見つかりました。また違う場所からは縄文土器が見つかりました。

二之宮鶴谷遺跡

平安時代(1108年)の浅間山噴火で降ってきた火山灰に埋もれてしまった水田の跡が発見されました。

中-05遺跡



古墳時代の水田跡

古墳時代(4世紀)の浅間山の噴火による火山灰に埋もれていました。1辺が2~4mで整然と区画されており、赤城山の南側で稲作が始まった頃の水田です。

六供遺跡群



平安時代の水田跡

平安時代(1108)年の浅間山の噴火による火山灰に埋もれていました。この時代の水田は古墳時代より大きくなります。

群馬県では火山の噴火による火山灰や軽石が時代を探る目安になっています。



で出土した土器



の住居のカマド

古墳時代から平安時代の住居跡が、51軒発見されました。これら多くの住居跡ではカマドが良く残っていました。ここは砂地で崩れやすい場所なので、煙出し部分を石で組んで丈夫にした珍しいカマドも見つかりました。今回の調査で今まで遺跡は少ないと思われていた南橋地区にも、古代の遺跡があることがわかりました。

BC10000	BC200	AD300	710	794	1192	1338	1573	1603
縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸

☆ひとくち用語解説☆

住居跡(じゅうきょあと)・・・家が建っていた跡。
土坑(どこう)・・・落とし穴やものをたくわえるための穴。
講堂(こうどう)・・・僧が説教や講話などの修行をする施設。
金堂(こんどう)・・・本尊を安置する寺院の中心となる施設。
回廊(かいろう)・・・寺などの建物を囲む屋根のついた廊下。

発掘調査の目的

土地開発など工事等で埋まっている遺跡が壊されてしまう前に、発掘調査を行い写真や図面で「記録保存」をします。史跡整備をするための発掘調査では、保存・活用を考えながら遺跡の内容を確認します。

発掘調査で見つかるもの

建物や溝の跡などの地面を掘った跡が見つかります。これを遺構（いこう）と呼びます。遺構からは遺物が出土します。遺物には土器、石器、木製品、金属製品、動物の骨などがあります。

発掘調査でわかること

遺構や遺物から、地下に埋まっていた昔の人々の生活の様子がわかります。遺物からは遺構のおおよその時代がわかります。

◎山王廃寺(放光寺)について～古代群馬に奈良法隆寺に匹敵する寺院が存在した～

総社町総社にある日枝神社の境内に、山王廃寺の塔心礎（柱の土台の石）があります。大正時代に偶然発見され、ここに古代寺院があったのではと調査が始まりました。昭和3年には、この塔心礎が国の史跡に指定されました。塔心礎が発見された日枝神社が山王権現をまつていることから、山王廃寺と呼ばれるようになりました。

昭和49年の調査では、「放光寺」と刻まれた文字瓦が出土しました。この「放光寺」の名前は高崎市の「山上碑」と「上野国交替実録帳」にも見られる「放光寺」に一致すると思われています。その後も何度か調査が行われ、塔・金堂・講堂などの建物を確認することができました。また根巻石や石製鴟尾などの石造物や緑釉陶器などの貴重な品々が多数発見されました。高い技術の石造物は総社古墳群にある宝塔山古墳や蛇穴山古墳の技術にも通じる精巧な物です。平成9、11年の調査では瓦や土器に混じって、塑像（粘土で作った像）が3,000点ほど出土しました。この塑像は奈良法隆寺の塑像に匹敵する高い技術によって作られています。この造営には上毛野氏が深く関わっていると考えられ、山王廃寺は7世紀後半（白鳳時代）に建てられた県内最古の寺院であることがわかってきました。

前橋市教育委員会では平成18年度から5カ年計画で、山王廃寺範囲確認調査を行っています。平成19年度までの調査で、講堂が東西31m・南北25m、金堂が東西22m・南北18mと判明し、回廊に囲まれた主要施設の範囲が東西約80m・南北約100mの規模であることがわかりました。

以上のことから、山王廃寺が古代東国を代表する寺院であったことがより確かとなりました。そして、これまでの調査の結果から、塔心礎だけでなく、山王廃寺全体が国の史跡範囲として拡大指定されました。

注) 廃寺…今は残っていない寺のこと。



☆文化財保護課では～主な催し物の紹介～☆

●前橋・高崎連携事業文化財展

平成20年1月から3月に『前橋・高崎の古代遺産 東国千年の都 古墳から寺院へ』を行い、両市出土の考古資料を合同で展示しました。前橋市での開催期間中には、約7千人の見学者が訪れ、前橋・高崎の古代遺産に触れていただきました。なお、この事業は今年度も行う予定です。

●前二子古墳石室復元市民プロジェクト

平成18年度からの3カ年計画で、石室内部を1878年に発掘された当時の姿に戻す活動です。2年目の19年度は金属製品馬具を作製しました。5月下旬には石室に納める儀式を含めたイベントを大室公園で行います。なお、20年度は玉鏡の復元を予定しています。

●問い合わせ●

平成20年3月31日発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10-2 電話027-231-9875・9531 FAX027-231-9862
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

